

## 2024年度 外国人留学生選抜 「専門試験」「小論文」等の狙い・意図・採点のポイント

学科・専攻	専門試験（芸術学科は小論文）	面接	専門試験 作品 利用
	狙い・意図	狙い・意図	
日本画	モチーフの特徴から発想できているか。 正確な形を捉えているか。 透明なものをどう描くか。 全体として魅力的な画面を作ること成功しているかを総合的に評価しました。	実技試験作品、持ち込み作品のコメント内容。質疑応答でのコミュニケーション能力に重点を置きました。	●
油画	今回は人物モデルを対象に自由に描くことを出題した。 モデルはワンピースを着て一人用のソファに座っている。 リラックスしたポーズをとるモデルの雰囲気もしっかりとらえて、どのように表現したかを見極めるのがねらいである。デッサン力、構成力などの基礎的な力を見極めるのと同時に、「自由に描きなさい」という言葉から独自の想像力を働かせたかを見ることを意図した。	実技作品の制作意図や今後の制作の方向性、将来の展望などを質問し、日本語によるコミュニケーションの力も判断材料とした。	●
版画	《選択A: デッサン》 質感の異なるモチーフを構成し、その透明性と重なりを、どのように描き分けることを出題のねらいにしています。 基礎的なデッサン力である描写力、観察力、構成力などを中心に、作者の意図や興味、テーマに対する取り組みも含め、採点のポイントとして総合的に評価しています。  《選択B: コラージュ》 コラージュは色彩表現とは異なり、単なる構成的な造形表現ではありません。複数の映像を組み合わせ、編集することの面白さをどのように引き出すかが肝心です。今回の出題においては、同じ雑誌2冊を素材とすることで、2つの同一イメージの関係をどのように構築できているかを評価のポイントとしています。	外国人留学生面接試験では、提出作品とポートフォリオを前に、専任教員との質疑応答の中で以下の点をポイントとし評価を行います。  ・日本語能力=質問を十分に理解し、的確に返答できるか ・完成度=作品とともにポートフォリオ自体に完成度があるか ・意欲・積極性=志望動機は明確であるか、学業や制作に意欲があるか ・プレゼン力=持参した作品を基に自身の考えを明確に述べられるか、説得力をもっているか ・計画力=入学後の研究に展望をもち、その実現に何が必要であるか把握しているか	●
彫刻	デッサンなど技術的修練が必要とされるものと、その場での発想力、両方をバランスよく見る意図で出題している。新聞を選んでいるのは、選択肢になるべく広い幅を持たせるため。社会問題に強く関心を持つ者、ひとつのワードから自由自在に想像力を膨らませる者、ストーリーを構築する者、複数の観点から総合的に評価をする。 学生が「現在持っている力」も見るが、入学後に「どれだけ伸びるか?」=自己の関心をいかに広く社会と接続していけるか?が一番の評価基準になる。	・デッサン（実技試験）作品コンセプトの聞き取り ・基本的な言語/コミュニケーション能力 ・美術以外に関心のあること ・ポートフォリオの内容について個別質問	●
工芸	対象となるモチーフの形態、素材感、立体感などの基本的な描写力を確認する。また、モチーフ同士の色彩や位置関係などの画面構成を制作意図として表現で出来ているか確認する。	参考文例による質問に対する返答における各受験生の日本語による理解力、思考力、コミュニケーション能力の確認をする。また、ポートフォリオ等の資料の内容、工芸学科への留学理由や志望動機などの確認をする。	●
グラフィックデザイン	・理解力 問題の把握、理解が正しいか ・伝達力 問題の意図や状況を正確に表現しているか ・発想力 問題を造形化するアイデアが優れているか ・描写力 構図、形、動き、量感などを描写することに必要な技術が優れているか ・個性 デッサンからうかがえる品格、感性に優れているか	・日本語で日常会話が行えるか ・専門分野の用語が理解できるか ・入学志望理由が明確であるか ・自分の意見が述べられるか	●
プロダクトデザイン	・理解力=問題の把握、理解が適切か ・発想力=アイデアが優れているか ・独創性=他にないアイデアか ・実現力=アイデア具体化方法の知識があるか ・表現力=アイデアが伝わる表現か	・授業に必要な対話力があるか ・本専攻の内容を理解しているか ・本専攻への入学意図は明確か ・自分の意見を述べられるか ・学習意欲が感じられるか	×
テキスタイルデザイン	モチーフは、植物とねじです。植物はオーストラリアで育つユーカリ種のテトラゴナのアートフィッシュです。主にクリスマスシーズンで使用されるドライリースなどの素材として流通している植物で、白い粉の吹いた実が特徴の肉厚で太い葉を持ち、1本でも存在感があります。実物と見劣りしない大変よく似せた作りですが、よく見ると茎と葉の接合部など自然では見られない人工物らしい形があります。またネジは、太さ4mm長さ10mm皿頭の十型の小さなタッピングです。螺旋状のねじ山が通常よりも高く見た目にネジ山が大きく見えます。また表面はユニクロメッキの明るいシルバー色でネジの凹凸に影が付きやすい色を選んでいきます。 今回の出題の最大のポイントは「細部まで観ているか?」を問うものでした。受験者が①細部の特徴を見逃さない発想力。②自然物を模した人工植物のモチーフにある特徴を見出す観察力。③小さなネジをどのように扱うかの表現力。④色合いや質感などを描き出す描写力を鉛筆デッサン、色彩構成ともに課しています。また並行して⑤画面構成力は大切な評価基準です。受験者は、上記の要点をふまえてながら独自性を強く有し美しく描くことができているかの判断を行いました。	初段では、日本文化の好きな点や、基本的に4年間の学生生活を継続できそうかなど、ざっくりとした質問をすることははじめ、生活に対する姿勢を覗きました。そして、テキスタイルデザインを学ぶ熱意や志望動機を明確に説明できるかを評価の対象とし採点のポイントとし、且つ受験者が授業についていくことのできる十分な日本語能力と、持参作品の造形力を評価に加えています。面接時に専門試験の回答に対し、自己評価を促す問いかけを行い、客観性や向上心を問うことを目的とした質問を行いました。	●
建築・環境デザイン	建築・環境デザイン学科が対象とする領域は、身の周りの小さなスケールから、都市のような大きなスケールまで様々です。あるモノ単体だけではなく、複数の関係を空間的に思考することが重要で、それを伝えるためにスケッチや図面といった「想定表現」が必要になります。その基本的な思考力・表現力を判断するために、実物のモチーフを「想定立体構成」してデッサンする、という出題でした。「机や背景は描かないこと」としているのは、空間の奥行きや広がりを伝えやすい背景に頼らずに、作者の純粋な立体構成力（空間表現力）を評価出来るからです。	・留学の意図や目標が明確であるか ・デザイン、アートに関連した基礎知識があるか ・基本的な表現技術が身につけているか ・日本語による日常的なコミュニケーションが可能か ・学科、コースの制作、教育内容やカリキュラムを理解しているか	×
情報デザイン メディア芸術コース			
情報デザイン 情報デザインコース	手とモチーフ（アイスクリーム棒）の鉛筆デッサンを通じて下記の評価を行った。 ・対象を見る観察力 ・基礎的な描画力 ・手やモチーフの形・質感などの表現力 ・手とモチーフによる構成力 ・モチーフの特性を考慮した構図の工夫 以上を通じて、観察して描くことに取り組んでもらうことが出題のねらいである。	・自己アピールなどプレゼンテーション力があるか ・日本語でのコミュニケーション能力があるか ・プレゼンテーションにおいて、作品の制作の意図・過程・結果・価値を説明できるか ・入学後の具体的な学習・研究イメージがあるか ・情報デザインの分野の専門性を理解しているか	×
芸術	日本語の習熟度だけでなく、思考力をみます。論述の着眼点が出題内容に対して的確であるか、論旨は明確で説得力があるか、という点も判断基準となります。常識的にまとめあげた文章より、テーマに踏み込んだ独自の発想を期待しています。	外国人留学生の存在は、他の学生にとっても大きな刺激になります。面接試験では、直接本人と会って日本語能力が適切であるか、芸術に関する最低限の知識をもっているか、などを判定します。	×
統合デザイン	・理解力=問題の把握、理解が正しいか ・観察力=日常の気付きからアイデアを導きだしているか ・発想力=イメージを具体化するアイデアが優れているか ・描写力=構図、形、光、量感などを描写することに必要な技術が優れているか ・視点=対象を捉える感覚とその表現が適正で感性に優れているか	・入学志望理由が明確であるか ・本学科の内容を理解しているか ・授業に必要な対話力・語学力はあるか ・授業への取り組みの意欲があるか	×
演劇舞踊デザイン 演劇舞踊コース	舞踊： 1、ニュートラルに歩く。 2、クリック音に合わせて歩く、早足やスローで歩く。 3、他者の動きに反応した即興的な動き、他者への能動的な動きかけ。 4、身体での即興的な表現などを実施。 身体を動かしながら日本語の口頭での指示を聞き取り、指示を基にして何らか実践することができているかを見た。  演劇： 1、テキストの台詞を読む。 2、今朝、家を出てから試験会場に到着までの出来事の即興的なスピーチ。 3、自身の身体が別にある設定での自己紹介。 声量や声の方向性など言語的な表現能力と感性、表現の幅を見た。また発想力や空間への把握能力も確認。 4、全員でルールを用いた寸劇の創作発表。 自由な課題の中でどの様な発想をもつか、集団創造におけるコミュニケーション能力が高いかを見た。	主に自身の国を離れて日本に来て学ぶ動機と、大学の中でも多摩美を目指す意志を尋ねた。 実技試験の感想、日常的にどの様な事柄に興味があるかを尋ねた。 他、基礎過程の2年間に演劇と舞踊の両方を学ぶことに耐性があるかどうか、必修科目の中に日本語で実施される講義科目があることを承知しているかを確認した。	×
演劇舞踊デザイン 劇場美術デザイン コース	「手」は全ての造形・創造を生み出す中心的役割を担っています。そして、演劇や舞踊では感情を表現する重要な手段でもあります。基礎的なデッサン力と共に、自由な発想や構図で、独創性や構成力を見ることがねらいです。情景を想定するという事は、モチーフから物語を創造してドラマチックな世界観を創出することも出来ます。また、演劇舞踊デザイン学科の特色でもある、「光と空間を意識した構成」を表現してください。光の表現・捉え方（陰影の表現）は重要なポイントとなります。 用紙の縦横レイアウトは自由ですが、画面構図は大きな採点ポイントとなります。自由な構成や構図で独創性と構成力を見ることがねらいです。情景を想定するという事は、実空間の形を捉えるだけでなく、ドラマチックな設定を思い浮かべ、心の中の情景を描くことも可能です。魅力ある個性的な創造力と描写力のバランスがとれているかも重要です。出題者の意図を読みとり、創造力で挑戦し採点者を感心させ感動させる解答を期待します。	面接試験では持参した作品の説明に重点をおいています。作品は、デッサンや色彩構成などのベーシックなものから、個人作品として制作したものまで幅広いラインナップが望ましいです。 作品解説において、明快なコンセプトとそれを実現するための表現を的確に説明出来ているかを評価の基準としています。また、決められた時間内に説明ができるかも重要な要素です。 説明や質疑応答時に、日本語でスムーズに会話出来るか、戯曲・台本を読めて議論できる語学力を有しているかも判断します。この学科への志望動機や目指したい方向性が明確かなども重要です。	●

## 全学科共通小論文

創作活動には必然的に時間を必要とする。  
そのことを、創作経験を通じ、どのように捉えているのか、ここを問う。

この場合の「時間」とは、準備のための時間、創作そのものに費やされる時間、絵画においては絵の具が固まり安定するための時間、など様々な考えられる他、一旦完成したのちに時間をかけて客観的に見直しをかける、など創作とは直接関わらないような時間も想定される。  
創作と時間の関係を探ることで、創作そのものへの思いやアプローチに対する気づき、発見もあると期待している。

その上で、  
○文の構成が整っており、基本的な日本語の能力を有しているか  
○出題に対して真摯に向き合っているか  
などの基本能力を問う。